



書
左右津安輝子

あの日の記憶から

監事 ^{うまがき やすよし}
馬垣 安芳

一九八四年八月二十日第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行
29年経っても消えない衝撃。午前5時46分、目の前の車が飛びあがった(実際は浮いたか?)。「ワァァ」びっくり返る。「何なんだ!」と四つん這いになって地面に這いつくばったまま唸り、波打つ地面。多分数十秒...? 何が起った!?!?そして周りを見渡した。小さな漁港の入り口、淡路沼島の磯の釣り場の渡船乗り場土生漁港。

大きく揺れる数本の電柱から防波堤に続く電柱と街灯が振り子のように揺れている状況に波打つ地面。何が何だか解らず、不安と恐怖。そして巨大地震か? 一体どこが震源? 次は津波! すぐさま津波が来ればこの港から上の道まで逃げられるか? ひとたまりもないかも等、色々な不安で混乱状態に陥っていた時。当時、釣りクラブを主宰しており、淡路島近海紀伊水道北西部の沼島周りの小磯がホームグラウンドでした。渡船で沼島周りの小磯の釣り場に渡して貰うために淡路島土生港に午前4時過ぎに到着。同行のクラブメンバーと阪神高速経由たこフェリーと島内をひた走り、道中今までになく狸に鹿にテン等小動物に数多く出会い、同乗者に「何か今夜は彼らも騒々しいね」と話しつつ到着した土生港の海

INDEX

- 01 あの日の記憶から～
- 02 能登半島訪問報告
- 03 あすなろふたばばいんの会のいとこれから
- 04 知らなかった世界
- 05 リレーエッセイ 災害と障害者 第八十一回
- 08 ゆめ風 30年企画
- 09 応援団からこんにちは! vol.10
- 10 カンパをいただいた団体 / 事務局の動き
- 11 会計報告
- 12 各地からの風だより

はベタ風。釣果を期待しつつ、調子を見るために防波堤で少し試し釣りで竿を出し様子見の時。さざ波一つない鏡のような海面を見て「こんな海、初めてだね」とメンバーと「今日は大漁予感だね」と渡船の迎えに向けて車に戻り、渡船渡し釣りの準備をしたらそのとき、ド・ドドンと地面が唸り跳ねた！のだった。いつもの優しい声の渡船の船頭さんが大きな声で、「船の走行中によく解らないが大きな地震が起こったと思う。津波の危険もあるので沖に避難するのであなたも避難を」と言い残し、波止を離れて行った。アッ！津波が来たら逃げられる？上の道から急な坂を降りた漁港だ。そのときに地元淡路の仲間たちが「島で大地震！震源地で津波は大丈夫」。その頃には地元の仲間達に自宅から「家が傾いた」「潰れた」等、何人もの携帯に連絡が入り続けるさなかに我々の事も気にかけてくれて、大阪に帰れる手段を地元の友人関係の居る複数のフェリー会社に問い合わせ貰い、フェリー会社の関係者のサポートのお陰で港の液状化寸前に和歌山深日港行きに一台スペースを確保頂き、午後には26号線を走り地元に向かう事が出来た。

能登半島訪問報告

事務局より 八幡隆司

6月から7月にかけて延べ5回にわたり、事務局の全員が能登半島を訪問しました。訪問の目的は、福祉避難所調査、各障害者事業所の困りごと調査、障害者事業所支援など様々です。共通に感じたことは、復興があまりにも遅いということです

東日本大震災では震災から5か月ぐらい経った頃には、町の中は重機やトラックなどがあふれ、震災後の家屋の片づけなどで粉塵が飛び交っていました。また町のいたるところでボランティアがあふれ、道路は工事車両や警察、自衛隊等支援をする人たちの車であふれていました。しかし奥能登ではそのような風景がありません。輪島市の火災が起きた現場でも重機が2台で細々と解体をしており、ほとんど焼け跡は残っています。壊れた家屋も倒れたビルもそのままの状態が残っていました。地元の人から「いつまでたっても震災の傷跡がそのままなので、心も晴れない」と聞きました。石川県としての家屋の公費解体完了は来年10月が目標ということで、まだまだ復興どころか家屋の片づけさえ終わらないようです。

私自身は今回の地震で震災直後に開設された福祉避難所の調査が目的で、東北福祉大学の石

車でナビのTVから流れる速報には鳥肌が立つ思いと不安な気持ちでひた走り続けた。しかしその頃になると電話が通じず、車のTVやラジオも同じことを繰り返し返し情報が無く不安は募るばかりの：特に長田地区の火災には：あの人は先輩達とは：。淡路島で指定された港に向かう途中の倒壊した家々、倒れた鳥居や灯籠。本当にどこか？ どれだけ？ 何が何だか解らぬ不安：どこかどれだけ破壊してる：？ 情報が少ないことで不安は募るばかりで、自身の関係する現場のことや昨夜走った高速がなぎ倒された映像に、もう少し時間がズレていたらと心は落ち着かない状況で高速は閉鎖され、国道をノロノロと走り続け淡路島ほどでないが崩れた塀や傾く木々を横目に夕刻やっと地元に戻った。

自身の係わる数カ所の作業所にグループホームの内部の散乱に一部階段の基礎や壁のひび割れ等あるものの大きな被害は免れました。関係者は「今淡路島から戻った」と言っても俄かに信じ難い雰囲気になり返ると、本当によく当日に帰れたものだと改めて思った記憶が生々しく残っている。

翌日、今は亡き当会の副代表の「ゆめ



すでに多くの自治体が福祉避難所協定を施設と結び、「福祉避難運営マニュアル」を策定しています。これは内閣府が策定した「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」に沿って作られたものですが、実際の災害に対応できないのではないかと思ったのが、この調査をするきっかけです。

ゆめ風基金では震災の翌週から毎週、被災地を支援する関係団体に集まっていたとき、どのような支援をするべきか、能登の現状は今どうなっているかと話し合う会議をしています。今回の訪問で被災した施設がどのような現状にあるのかを聞き取ることで、お互いに顔の見える関係で支援をすることができるようになりました。

限られた紙面で詳しい報告はできませんが、ホームページやブログ、メルマガリストなどでお知らせしますので、是非ご覧ください。

風10億円基金」提案者の河野さんから連絡が入り、「大変な事態になっているが状況がはっきりしない。動けるなら出る範囲で状況を見てきてほしい」との連絡を受け現状を知るべく被災地に向かった。倒壊した阪神高速には肝を冷やす。なぜなら数時間前に走った事が想いを強くした。どこを見ても今まで経験のないすさまじい光景に驚愕し、発生時の恐怖が生々しく蘇る。部屋で僅かな空間で圧迫死を免れたり、危うく倒壊した家で家具で出来た僅かな隙間で助かった被災障害者・障害の仲間の現状の命ギリギリ被災は私の比ではないとは思いますが、正直本当に恐ろしかった。あの突然の恐怖から29年、幾度となく繰り返される災害が起こるたびに災害弱者への対応のまずさに悔しさを覚えます。災害は何時どこで起こるか解りませんが、備えあればです。日々新たな出会いの機会があるたびに名刺交換をし、名刺裏面に敢えてゆめ風基金の活動を入れるようにしています。ゆめ風基金を話題にし伝える事から防災減災を願いつつ、地元の仲間と行政交渉や募金活動等に取り組み、一人も災害弱者を生み出さない社会に向けて出来る限りの事をしたいと思っています。

共同連マラソントーク in 大阪 能登半島地震から学ぶNo.2

『被災地の今を知り、私たちができることとは…』被災地の現状を現地の方からお話をうかがい、学び、動いていけることを探りたいと思います。多くの方々ご参加お待ちしております。

日時：10月19日(土) 13時スタート

会場：箕面市立船場生涯学習センター

参加協力費：500円

※20%ゆめ風基金へカンパといたします。

※当日カンパ箱も用意します。ご協力よろしく申し上げます。

イベントのお知らせ

第19回 ゆめ風であいましょう

今年もやります！

くわしくは同封チラシをごらんください。小室等さんの音楽もお楽しみに！

日時：12月6日(金) 18時半スタート

会場：練馬区ココネリホール

テーマ：能登半島地震であらわになったこの国のあやうさ～阪神淡路大震災、東日本大震災の教訓は生かされたのか？～

ゲスト：望月衣塑子さん(東京新聞記者)

進行：小室等さん

新たな連携を目指して

共通性と相違性

大規模自然災害に見舞われるたびに思うことがある。キーワード風と言えば「共通性」と「相違性」。共通性とは、いずれの災害にもつきまとう不可避的な傾向であり、相違性とは災害ごとの固有の問題事象である。このことは、この30年間の大規模地震を並べてみても明らかだ。阪神淡路大震災（1995年1月17日）、東日本大震災（2011年3月11日）、熊本地震（2016年4月14日・16日）、そして今般の能登半島地震（2024年1月1日）と続くが、共通しているのは、おびただしい数の死傷者を出したことであり、復旧・復興に長期の歳月と莫大な経費を費やすことである。

他方で、相違性（固有性）を見て取ることができる。前述の発災順で言えば、都市部型、超広域型、関連死頭在型、人口過疎地帯・半島型と特徴づけることができよう。相違性には、原発の有無、発災時期（季節要因）、高齢化率なども加わってくる。私たち障害分野が、災害政策や支援策を論じるにあたっては、とりあえずは「共通性」の視点から迫っていいのではなからうか。

当事者参加

もう一つ思うことがある。国をはじめとする災害に関する審議会や検討会の無力ぶりである。いずれの報告書も見栄えはいい。ただし、いつも思うのは読後の違和感である。ひと言で言えば、魂が感じられない。「見栄えはいいが的外れ」と言ってもいいのかもしれない。

例えば、能登半島地震で問題とされたのは、初動救済・支援の遅れであり、障害者や高齢者のための福祉避難所がほとんど機能しなかったことだ。行政や専門家のあいだから聴こえてくるのは、「悪い条件が重なってしまった」（発災時期、地形的な要素など）「想定外だった」などである。いずれも聞き飽きたフレーズである。そもそも、自然界を相手とする災害政策は、「想定外との勝負」なのである。聞き飽きたフレーズは、自ら想像力の乏しさを露呈しているようなものだ。

筆者は、かねがね「政策は何を作るかよりも、誰がつくるかが決定的」と主張してきた。災害政策もしかり。答えは明確である。政策の審議や決定の過



NPO法人日本障害者協議会代表。都立小平養護学校の在職中に、地域での作業所づくりや共同作業所全国連絡会（現在のきょうざれん）の結成に参加。30代前半で退職。その後は、NGOの立場で障害関連政策の改善に専念。現在は、日本障害フォーラム副代表、きょうざれん専務理事。

程に、障害当事者や家族、それに日常的に障害のある人を支えている人を加えることである。関連審議会の構成の過半数は、広義の当事者で占めるべきである。見栄えはよくなくとも、現実的で魂のこもった災害政策が仕上がるに違いない。

2倍でなく等倍に

以下、「災害と障害者」に関連して、普段から気になっていることを三点略記する。一つ目は、「障害者の死亡率は全住民死亡率の2倍」を絶えず念頭に置くことである。この数字は、東日本大震災の折に、複数の報道機関より公表されたものだ。おかしな言い方かもしれないが、障害の有る人も無い人も「等倍」でなければならぬ。「2倍の死亡率」に、「災害と障害者」の本質を垣間見ることができよう。残念ながら、国は東日本大震災時の「2倍の死亡率」について、未だ検証を行っていない。

二つ目は、「忘れない」を意識することだ。最大の支援は「被災地を忘れない」であり、同時に「忘れない」は、次なる災害への備えにもつながる。記録文や関連映画をみるのもいい、被災地を訪れるのもいい、被災事業所から製品を買うのもいい、身近な人とディスカッションするのもいい、多様な方法があるはずである。

三つ目は、平時の障害のある人を支える水準を問いつけることである。障害者が地域で暮らすための条件（人的、物的）が手厚いほど、被災や復興に好影響が出ることがわかってきている。平時の支援水準と災害問題とをつなげる視点が肝要となる。

連携に新たな兆し

日本障害フォーラム（JDF）は能登半島地震においても、現地に支援拠点を設けるなど、「当事者目線」の活動を開始した。じっくりと構えていきたい。今般、気付かされるのは、従来に増して幅広い連携が形成されていることだ。地元の障害当事者や関連団体のニーズをベースに、ゆめ風基金や難民を助ける会、企業財団との連携は新たな段階に入っているように思う。具体的な支援活動に磨きをかけていくことに加えて連携の幅と質も大きく発展させていきたい。

応援団からこんにちは！

vol.10

「ゆめ風応援団」のみなさんからの自己紹介をかねたメッセージをお届けするシリーズ第10弾！

大阪府大阪市

大阪障害者労働センター マツサクぐる～ぶ
代表 松場 作治



私たちマツサクぐる～ぶは、1983年に障害者の自立と労働・仕事を作り出し考え・行動する場づくりをめざしてスタート。

社会的なハンディをもつ者にとっては、まだまだ社会参加できる場も少なく、周りの理解を深めて行くことも並大抵のことではありませんでした。その現実に向かい、ありとあらゆる手段を駆使し、障害の有無にかかわらず仲間たちとともに、社会の仕組みの矛盾との闘いに日夜奮闘。あれからもう40年…。

ゆめ風基金の救援活動は阪神淡路大震災の時、「マツサクぐる～ぶ」もカンパ活動を行いました。東日本大震災の際でも、「共生・共走マラソン」や現地障がい者団体の物販販売、「NPO 法人共同連」で現地訪問も行って来ました。

能登地震の時、トイレの問題は本当に大変だったと思います。私自身車いすでの生活で病院へ通院しています。その病院にトイレはあるのですが、手すりが不十分。便座への移乗に転倒しそう「トイレに手すりを付けてほしい」と訴えても「金がない」。後々「心がない」と違うか。「合理的配慮」は？これからもあきらめず声を上げ続けなければならない。

最後に2025年5月「第27回共生・共走マラソン」の復活。乞うご期待！

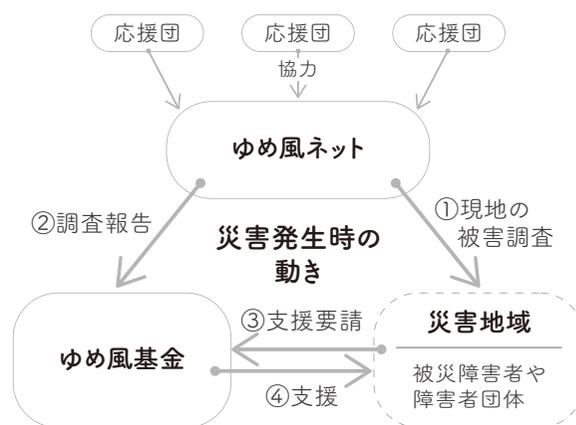
ゆめ風ネットとは

ゆめ風基金の団体正会員となり、総会に出席いただくことができます（年会費2000円）。被災障害者救援活動を目的としています。自然災害が起きた時は、地域の被災情報等をお寄せいただき、ゆめ風基金から支援のご協力をお願いすることもあります。

応援団とは

災害時にゆめ風ネットの活動に対して、情報提供などのご協力をいただきます。

前回掲載しました応援団の図解に過ちがありました。正しくは下記になります。



災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報収集が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集していただくる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

ゆめ風30年企画 第3回

2025年（来年）は、阪神淡路大震災から30年、ゆめ風基金発足30年を迎えます。過去の災害を忘れず伝えるため、発災当時、救援活動の中心として活動されていた方々に当時の様子を振り返っていただきます。

災害時の障害者の命を守る為に

生活支援研究会 理事長
たなか じゅんこ
田中 順子



ゆめ風基金30周年迎えましたね。阪神淡路大震災の時は大変お世話になりました。私は、19歳で震災を体験しました。当時、神戸の須磨区の車椅子住宅に住んでいて、被災しました。自分の部屋で寝ていて扉が開かない状態で、障害があり、自分で扉を開くことができず、兄に助けられました。車椅子住宅なので、一階から車椅子に乗り、すぐに避難できたことは良かったと思います。他の障害者はエレベーターが止まり、3日くらい家に閉じ込められたという話を聞き、震災の時は上の階に住んでいる障害者は困ると痛感しました。

私が一番困ったことはトイレでした。車椅子トイレが震災で使えず、全部を把握しているわけもなく、トイレをするのに困り、市営住宅のガレージの所にポータブルトイレを置いてタオルで隠して祖母に手伝ってもらい、トイレをして大変でした。

母は仕事で、家にはおらず、祖母と兄に助けられました。避難所には行かず、1週間親戚の家に避難させてもらいました。親戚の家もバリアフリーではなく、お風呂もトイレも苦勞しました。大阪にある早川福祉会館という所が障害者に避難場所として場所を提供してくれるという話を聞き、1週間後に避難させてもらいました。そこで2ヶ月間、仲間の障害者と避難生活をしました。

各地から100名以上のボランティアが来てくれて、非常に助かりました。ただ、介護面ではせっかく慣れた時にボランティアが帰っていくことの繰り返しで、教えるのが大変でした。長く滞在してくれる人が貴重な存在でした。たくさんの人に支えられ、また、ゆめ風の人の支援も受け、感謝しています。その支援がなかったら震災を乗り切ることが非常に困難だったと思います。

今回、正月に能登の災害が起きて、障害者がどうなっているのか報道もされず、心配しています。ゆめ風も募金などして現地の調査もして頑張っていると聞いています。何か災害があれば動いてくれるゆめ風には本当に感謝しかありません。ただ今後、大きな地震や津波に向けて、自分達でも対処を考える必要があると思います。また、ゆめ風には色々教えていただけると嬉しいと思っています。

津波や地震は予期しない時に起こります。普段の備えが大事だと思っているので、私達は派遣事業所で普段活動していて、あまり考える時間がないのですが、みんなの命を守るように備えたいと思っています。

ゆめ風基金30年記念イベント 開催のお知らせ

日時：2025年5月25日（日） | 会場：大阪府教育会館 たかつガーデン8F

※詳細は、次号ゆめごよみ109号にてお知らせいたします。
※1月の臨時号をご覧の方は日程が変更となりましたのでご注意ください。

2025
2024
2023
2022
2021
2020
2019
2018
2017
2016
2015
2014
2013
2012
2011
2010
2009
2008
2007
2006
2005
2004
2003
2002
2001
2000
1999
1998
1997
1996
1995

NPO 法人 **ゆめ風基金** 会計報告 351,322,401 円
 ただいまの基金額 貸付金の残高 0 円
 これまでの救援金・救援活動費総額 610,210,452 円
 総会員数 14,016 人

		前回報告残高 2024年3月現在	この3ヶ月の動き 3月から6月まで	今回報告残高 2024年6月現在			
収支計算書	収入の部	会費収入	11,581,964	2,365,037	13,947,001		
		寄付金収入	18,474,946	4,073,999	22,548,945		
		臨時寄付金収入	15,155,995	6,211,435	21,367,430		
		助成金収入	0	0	0		
		事業収入	287,404	301,250	588,654		
		雑収入	2,678	283,584	286,262		
		貸付金返済収入	0	0	0		
		保証金返済収入	0	0	0		
		預り金収入	423,256	478,098	901,354		
		未収入金収入	111,000	0	111,000		
		未払金収入	0	0	0		
		合計	46,037,243	13,713,403	59,750,646		
		収支計算書	支出の部	救援金支出	10,373,550	15,160,664	25,534,214
				救援活動支出	233,015	400,628	633,643
貸付金支出	0			0	0		
基金拡大活動支出	187,862			99,296	287,158		
防災活動事業支出	199,210			111,790	311,000		
広報活動事業支出	856,804			475,622	1,332,426		
その他事業支出	164,600			148,480	313,080		
人件費支出	3,076,802			3,584,645	6,661,447		
その他事務費支出	1,973,344			1,065,457	3,038,801		
預り金支出	441,617			377,911	819,528		
未払金支出	287,904			0	287,904		
固定資産購入支出	0			0	0		
保証金支出	0			0	0		
合計	17,794,708			21,424,493	39,219,201		
差引：収支差額		28,242,535	△ 7,711,090	20,531,445			
貸借対照表	資産の部	基金特別会計預金	362,306,321	△ 10,983,920	351,322,401		
		一般会計現金預金	2,156,816	3,272,830	5,429,646		
		[現金預金合計]	364,463,137	△ 7,711,090	356,752,047		
		障害者貸付金	0	0	0		
		有形固定資産	416,152	0	416,152		
		その他の資産	1,065,966	0	1,065,966		
	合計	365,945,255	△ 7,711,090	358,234,165			
	負債の部	未払金	0	0	0		
		預り金	280,657	100,187	380,844		
		その他の負債	0	0	0		
合計		280,657	100,187	380,844			
差引：正味財産		365,664,598	△ 7,811,277	357,853,321			

脚注 1. 今回は4月から6月までの3ヶ月間の報告です。
 2. 救援金は8件の支払いがありました。
 3. その他は特に大きい変動はありません。

災害別の救援金総額 以前に他の災害でお届けした救援金はゆめ風 WEB サイトとブログに掲載しています

東日本大震災	2016年熊本地震	2018年西日本豪雨	2024年能登半島地震
350,127,104 円	55,598,387 円	45,164,095 円	24,367,857 円

カンパをいただいた団体

2024/03-2024/06

能登半島地震発災後から、たくさんの個人や団体の方々よりご寄付いただいております。心より感謝いたします。

1/13 桑の木 (仙台市) 1/15 日本ふうせんバレーボール協会大阪支部 (八尾市) 1/17 共生シンフォニー (大津市) 1/18 黒川こころの応援団 (黒川郡) 2/6 自立生活センター三田 (三田市) 2/18 黒川こころの応援団 (黒川郡) 3/1 あんとふる (小松市) 3/1 サポートセンターわかさ (大阪市) 3/4 ソーシャルアクション・パートナーシップ (京田辺市) 3/4 楽風 (さいたま市) 3/4 ピープルファースト北海道 (札幌市) 3/5 鈴木レディスホスピタル (金沢市) 3/6 坂町心身障害児者ゆずりはの会 (安芸郡) 3/6 葉山健康研究会 (三浦郡) 3/6 障害者の自立を支えるサポートネットワーク (豊中市) 3/7 福祉のまちづくりの会 (田村市) 3/10 ゆずりは (吹田市) 3/12 ガチャバンともに生きる会 (世田谷区) 3/12 ここの家 (和泉市) 3/12 ハートフル親の会 (大東市) 3/14 ABC 研究所 (北九州市) 3/15 八木一男福祉会 (宇陀市) 3/15 イーハートープ (さいたま市) 3/15 京都ダウン症児を育てる親の会トライアングル (京都市) 3/18 黒川こころの応援団 (黒川郡) 3/18 ゆっこ自立福祉会 (上田市) 3/18 諫早手話サークル (諫早市) 3/19 JDS 日本ダウン症協会奈良北支部バンビーナの会 (奈良市) 3/19 上福岡障害者支援センター 21 (ふじみ野市) 3/19 自立生活センター立川 (立川市) 3/21 みたか街かど自立センター (三鷹市) 3/25 自立生活センター松山 (松山市) 3/25 一七市実行委員会 (神戸市) 3/26 ピアサポートみえ (津市) 3/26 CIL 神戸 Be すけっと (神戸市) 3/26 知的障害者を普通高校へ北河内連絡会 (枚方市) 3/26 日本ダウン症協会 (豊島区) 3/27 CIL ひこうせん (行田市) 3/27 パーソナルサポートひらかた (枚方市) 3/27 地域生活きたのセンターばお (札幌市) 3/29 発達障害サポートセンター (大阪市) 3/29 かまくら福祉・教育ネット (鎌倉市) 4/1 兵庫虹の会 (宝塚市) 4/3 クッキープロジェクト (さいたま市) 4/4 あんとふる (小松市) 4/5 障害者活動センターあゆみ (安芸郡) 4/8 アルビーノ村お客様と共に能登応援 (さいたま市) 4/9 ひびき (白山市) 4/10 耕治 (北九州市) 4/15 生活支援研究会 (神戸市) 4/15 ステップワン (伊勢市) 4/16 白陵高等学校 (高砂市) 4/16 八木一男福祉会 (宇陀市) 4/18 黒川こころの応援団 (黒川郡) 4/19 自立生活センター・いこらー (岸和田市) 4/22 吹田障がい者協議会 (吹田市) 4/23 みたか街かど自立センター (三鷹市) 4/25 箕面市人権協東日本義援活動 (箕面市) 4/25 ぶったあ福祉会 (淡路市) 4/25 CIL くにたち援助センター (国立市) 4/26 草の実会 (札幌市) 4/26 いちごの会 (大阪市) 4/27 大フォーラム実行委員会 (杉並区) 4/30 障害者支援センター 21 (ふじみ野市) 4/30 草の実会利用者家族職員一同 札幌陽風会利用者・家族・職員一同 (札幌市) 4/30 大阪ボランティア協会 (大阪市) 5/8 鯛ヶ崎公園プレイパーク (横浜市) 5/9 立教女学院キリスト教センター (杉並区) 5/15 スマイルウオーキング倶楽部 (千代田区) 5/16 八木一男福祉会 (宇陀市) 5/18 ひなたぼっこ (鶴岡市) 5/18 黒川こころの応援団 (黒川郡) 5/20 ふくてっく (大阪市) 5/20 みたか街かど自立センター (三鷹市) 5/20 吹田障がい者協議会 (吹田市) 5/21 浜松協働学舎を支える会 (浜松市) 5/21 FDM Tokyo (港区) 5/22 FDM Tokyo (港区) 5/22 あじゃ保育園 がじまる保育園 あじゃこども園 (那覇市) 5/24 国際障害者年を機に「障害」者の自立と完全参加をめざす豊中市民会議 (豊中市) 5/30 田辺三菱製薬労働組合 (大阪市) 6/3 吉田町手をつなぐ育成会 (宇和島市) 6/3 災害弱者安心ネットワーク高松 (高松市) 6/3 国境なきタコ焼き団 (名古屋) 6/3 ここの家 (和泉市) 6/3 西淡路希望の家族会 (大阪市) 6/4 日本脳性マヒ者協会全国青い芝の会 (東広島市) 6/10 プラス we (箕面市) 6/11 さんりく・こすもす (大船渡市) 6/12 チャレンジド (知多郡) 6/13 高槻手をつなぐ親の会 (高槻市) 6/14 すくすく会 (福井市) 6/17 ビーポップ (さいたま市) 6/17 ひまわり洋装店 (豊中市) 6/17 ひらの亀戸ひまわり診療所 (大阪市) 6/18 デフサポートおおさか (大阪市) 6/19 およりラボ (高松市) 6/21 ABC 研究所 (北九州市) 6/22 坪井令夫商店 (名古屋市) 6/24 かたつむり (大船渡市) 6/24 八木一男福祉会 (宇陀市) 6/26 自立支援センターばぼろ (大阪市) 6/26 みたか街かど自立センター (三鷹市) 6/27 楽風 (さいたま市) 6/27 冬のチェンパロの会 (芝辻町)

事務局のうごき

2024年4月から6月の動きを一部ご紹介します。

毎週月曜：事務局会議 | 毎週金曜：新 HP 打合せ | 1/9 より毎週火曜日に能登半島地震支援会議

4/1 おおさか災害ネットワーク (以下 OSN) 定例会 4/10 大阪救援本部会議 4/13 能登半島地震街頭カンパ 4/18 此花区介護保険部会講演 4/22 CIL だんない講演 4/24 理事会 5/1 OSN 能登半島連携会議 5/7 ゆめごよみ 107 号編集委員会 5/9 大阪救援本部会議 5/18 日本障害者フォーラム能登支援拠点開所式 5/29 CIL いわき講演 5/30・31 防災防災展参加 6/2 明治国際医療大学講演 6/3 理事会、OSN 能登半島連携会議 6/5 OSN 災害連携会議 6/5・6 ゆめごよみ 107 号発送作業 6/7 大阪工業大学講演 6/8～11 能登訪問 6/15～18 能登訪問 6/13 ガザ支援報告会 6/18 自立支援協議会輪島市連絡会参加 6/22 奈良県網膜色素変性症協会講演 6/23 京都ダウン症協会講演 6/24～26 能登訪問

そよ風、こぼれ風、六甲おろし

各地からの風だより

2024.4-2024.6

▼いつも気にかけています応援しています(十和田市)▼能登の震災にお使い下さい(京都市)▼万博いらない! 能登の復旧を!(大阪市)▼台湾への寄付(さいたま市)▼災害は他人事ではなく。少しでも有効に使っていただけるところに(広島市)▼障害者の防災、避難を考える市民の会の有志が集まったお金です。役立てて下さい(宇部市)▼利用者の安全生活の維持・増進がすすみますように(高槻市)▼少しづつですが能登の応援の為続けます(倉敷市)▼2月にコロナで寝込み、精神科の薬が切れたところ、全く何も食べられなくなりました。自分も災害弱者かもしれないと初めて思いました(大阪市)▼誕生日なので、プレゼントをもらっただけでした、私から何か役立つことができたらとささやかですが寄付いたします(豊島区)▼能登震災の被災地の皆様の為にバザーとコンサートを開いて募った募金です(藤枝市)▼無事に誕生月を迎えることができました。その感謝をこめて(高知市)▼寄付金が大量の時に皆さんの助けになっている事をNo.106たよりで知れ、改めて寄付を続けたいと思えました。山田太一さん影響力のある方でしたね。さみしいです(大阪市)▼天候不順で体調の維持に苦労します。皆様もどうかご自愛くださいませ(船橋市)▼災害が続きます。少額ですが(富士見市)▼ゆめ風ネット加賀で集まった寄付です。よろしくお願いします(金沢市)▼基金の助けになれば幸いです(蒲生郡)▼能登とパレスチナの被災障害者支援にわずかですがカンパします(大阪市)▼機関誌、参考になります。少しですがお役立てください(沼津市)▼災害がある度に皆様の大変さを思い、胸が痛みます(あきる野市)▼能登へ復興が全くといっていい程すすんでいません(宇治市)▼ガザの障害者支援(名古屋市)▼それでも地球は青いはず(枚方市)▼能登半島地震に對し心ばかりですが寄付をさせていただきます。宜しく願っています(吹田市)▼心に痛い毎日、なんとか光が差すようになって欲しい(小牧市)▼お金は導具です! 少しですが、使ってください必要なところへ届け!!(日野市)▼世界中でキナ臭い動きがあります。今こそ平和を(長岡市)▼能登を棄てるな! 戦争反対!(大阪市)▼本来はもっと政府がなすべき事です。わずかですが精一杯です(池田市)▼各地からの風だより皆同じ思い...と読ませて頂いております。お役立て下さい(亀岡市)▼能登の被災された復興支援よりも外国への援助を優先する現政権に理解できません(静岡市)▼93大貧者の一灯です。皆様頑張ってください(福岡市)▼ゆめごよみ風だよりNo.107をよみ、誰もがもつ人を思う心の尊さを知り大変勇気付けられます(横浜市)▼小さいことしかできませんが、ガザの障害者の皆さんに心寄せています、と伝えてどうか無事に生き抜いて下さいますよう(大阪市)

ゆめ風ブログ (<https://yumekazek.com/blog/>) にも掲載しています

編集 ▶元ゆめ風基金事務局員の長崎圭子さんが4月15日に急逝されました(享年61)。
後記 NHK ラジオ番組「共に生きる」キャスターを11年間経験された後、ゆめ風当事者スタッフとして(講演、司会をはじめ)幅広く活躍なさいました。心よりご冥福をお祈りいたします。
 ▶天災や人災によって苦しむ人は世界で後を絶たず、パレスチナのガザ地区でも戦争が続き苦しんでいる人たちがいます。ゆめ風基金では今年3月と7月にガザ地区の障害者支援のためにピースウィンズジャパンを通じて救援金をお届けしました。支援報告会の様子をYouTubeでご覧いただけます。ゆめ風ホームページのトップページ中ほどの活動日誌をご覧ください。

ゆめ風基金の SNS やウェブサイト

Facebook
yumekazefund



YouTube
@user-jt6wo9lk8q



Instagram
yumekazek



Website
yumekazek.com

